

コルムネア

イワタバコ科 GESNERIACEAE

属名 Columnea [コルムネア] コルムネア属

英米発音 カーラムニア [kuh-LUHM-nee-uh], コラムニア [kol-LUM-nee-uh]

属名由来 命名 リンネ、1753年。17世紀の植物学者ファビウス・コルムナ (Fabius Columna) に因む。▼リンネ『植物の種』で公開されたのは コルムネア・スカンデンス (*C. scandens* L. 1753; <scandō [スカンドー] は「上がる、よじ登る」)で、登攀性(とうはんせい)の茎に因んだと考えられる。花が深紅であること('phoeniceo* flore')が記されている。(<* phoeniceo [ポエニケオ] < pūniceus [プーニケウス]; 深紅色の、紫色の、緋色の)

分布 熱帯。中央アメリカ、南アメリカ北部、カリブ諸島。

植生 常緑/多年草。着生、地生。多雨林、雲や霧がかかって湿り気のある森林などに自生。腐植に根付いて着生または地生する。高さ10~35cm。

メモ 種の数:約150~。しなやかに長く伸びる枝に、つやのある小さな葉が並び、通常、秋から春にかけて印象的な筒状の花が見られる。英名のニックネーム Goldfish plant は花の形が金魚に似ていることによる。▼温暖多湿で、風通しの良い、薄日の当たる環境が適する。室内栽培にも向く。テラリウムも可能だが、蒸れないように風通しをよくすることも必要。過湿状態では葉や茎が腐るので、常に用土がびしょ濡れで、いつも株が水で濡れているような状態は避ける。▼気温が25℃以上になり、30~35℃を超える日もある多湿の日本の夏は、コルムネアにとってはつらい気候である。高温では株が休眠に近い状態になるので、湿度を保ちながら涼しい場所で休ませて夏越しするように努める。▼限られた環境条件に生育する植物なので、栽培はかならずしも単純ではないが、条件さえ整えればそれほど手をかける植物でもない。

茎・幹 匍匐、垂下、登攀(はん)性。枝は匍匐または垂下するが、枝先は登攀性で上を向く。室内栽培では分枝しにくい傾向がある。

葉 やや厚みがあり、毛に覆われる。[出方・配列] 対生、輪生。[葉身] 卵形、披針形、楕円形。

花 赤、オレンジ、黄の筒状の花が葉腋に単生または数個つく。[花序] 単生、房状花序。[開花期] 秋~春。

光の条件 1 日陰 2 明るい日陰 3 半日陰 4 明るい半日陰 5 直射日光 ※直射日光の長時間照射は(特に高温期)強すぎ、一方、光量が足りないと開花しにくい。

温度性質 1 強耐寒性 2 耐霜性 3 半耐寒性 4 非耐寒性 [耐寒温度] 7~8℃ [生育適温] 20~25℃

空中湿度 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿ぎみ 5 多湿

土壌湿度 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿 5 水浸

栽培用土 腐植質を含み、水はけ・保水がよい土。[肥沃度] 肥料分が少ない。[用土例] 腐葉土1+砂礫~礫1 / 水ゴケ

肥料 [元肥] 不要。[液肥] 生育期にごく薄いものを月1回。※通常より4倍薄くした液肥を控えめに与える。

植付け・植替え 根がよく回るほうが花着きがよい。ハンギングや浅鉢に植えて、半日陰~明るい日陰に置く。

水やり 乾きすぎると花芽のつきが悪くなり、過湿が続くと根や茎が腐りやすい。生育期間中は用土が過湿とにならないように適度に土を乾かしながら灌水する。秋の冷涼期に入ったら徐々に減らし、冬季は控えめにして土壌湿度と空中湿度を保つ。花期には、1カ月余り前から水を切らしぎみにすると開花を促す。蕾が出たら普通の水やりに戻す。[葉水] まめに霧吹きし、湿度を高め、葉に水分を補給。

手入れ 混んだ部分や伸びすぎた枝を切り戻す。剪定枝は挿し穂にできる。

冬越し 無加温の越冬は難しい。10℃以下では葉が黄化し枯れる場合がある。12℃以上の保温が必要。日中は室内の日当たりのよい場所で温度をとり。夜間は暖房を効かせた部屋で温室に入れるなどの保温を。水やりは控えめとし、微温水を霧吹きして湿度を高める。

繁殖 [繁殖方法] 挿し木。※新梢に数枚の葉をつけて5~6cmほどを挿し穂とし、水ゴケや砂に挿す。

Columnnea

コルムネア

コルムネア

Photo 1



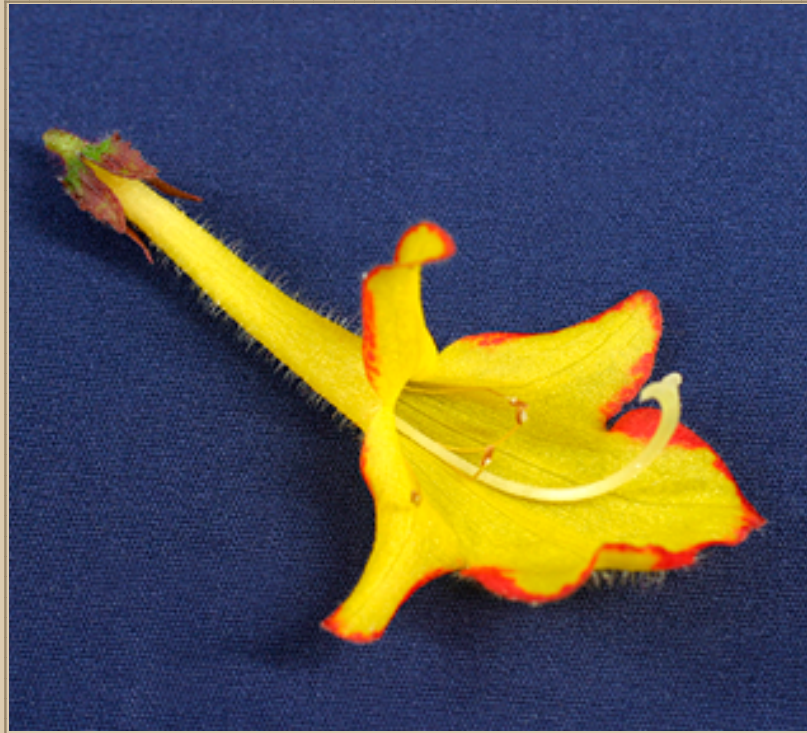
冬場、保温と湿度維持のために、ガラス製花瓶でテラリウム風に。用土はバーミキュライトを鉢の1/3程度とし、乾きやすくした。鉢の安定と保湿の目的で、底材としてパーライトを2~3cm敷き、全体が湿る程度に微温水をかける。▼1日数回、微温水を少量霧吹きして湿度を維持しておく、根は水を含んだ底材に伸びるほどになる。▼冬季の夜間はビニール袋をかけて保温するとよいが、約10°C以上を維持できるなら不要。これはイワタバコ科全体に通じる。[撮影 東京・杉並区、2006年12月]

Columnnea

コルムネア

コルムネア

Photo 2



仰向けにした花。花は筒状で、葉腋から発生し単生または小さな房状となって咲く。花は5裂し、上部2枚の花弁は合着し大きめの庇状の覆いとなり、中ほどの2枚の花弁はやや尖って左右に開き、残りの1枚は細長く下を向く。花糸と花柱は覆いから突き出る。▼5花弁が金魚のように見えるところから Goldfish plant の名がついた。[撮影 東京・杉並区、2006年12月]

Columnea

コルムネア

コルムネア



{生育適温} 20~25℃
[耐寒温度] 7~8℃

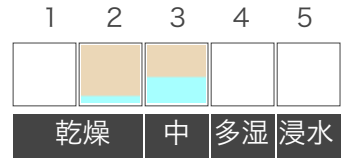
空中湿度



明るさ



土壌湿度



植生 熱帯の多雨林、雲や霧がかかって湿り気のある森林などに自生。腐植に根付いて着生または地生する。着生、地生。高さ10~35cm。

土壌 腐植質を含み、水はけ・保水がよい。[肥沃度] 肥料分が少ない。

用土 腐葉土1+砂礫~礫1、水ゴケ

肥料 [元肥] 不要。[液肥] 生育期にごく薄いものを月1回。 ※ 通常より4倍薄くした液肥を控えめに与える。

水やり 乾きすぎると花芽のつきが悪くなり、過湿が続くと根や茎が腐りやすい。生育期間中は用土が過湿とならないように適度に土を乾かしながら灌水する。秋の冷涼期に入ったら徐々に減らし、冬季は控えめにして土壌湿度と空中湿度を保つ。花期には、1カ月余り前から水を切らしぎみにすると

温度区分	■ 厳寒・寒冷期	■ 冷涼期	■ 温暖期	■ 高温期
温度帯	~ 8/16℃	9/17 ~ 13/21℃	14/22 ~ 18/26℃	19/27℃ ~
季節	冬	→ 早春~晩春 ← 中秋~晩秋	→ 初夏~梅雨 ← 晩夏~初秋	→ 夏、盛夏
光	窓辺のガラス越しの日光	レースカーテン越しの日光	レースカーテン越しの日光	室内または戸外の半日陰
植付け			初夏	
水やり	土が乾ききる前に少なめに	表土が乾いてから少なめに	表土が乾いてから十分に	表土が乾いてから十分に
繁殖			挿し木	挿し木

- 高温期：1日平均気温23℃以上 (19/27℃~)。寒冷地植物の生育が劣るかまたは困難。【特徴】 夏日、真夏日。/夏、盛夏。
 - 温暖期：1日平均気温20±2℃ (14/22~18/26℃)。熱帯植物が十分に生育可能。【特徴】 光合成のピーク。/初夏~梅雨、晩夏~初秋。
 - 冷涼期：1日平均気温15±2℃ (9/17~13/21℃)。ヤシ、非耐寒植物が生存できる低限域。【特徴】 桜の開花。彼岸。/早春~晩春、中秋~晩秋。
 - 寒冷期：1日平均気温10±2℃ (4/12~ 8/16℃)。非耐寒植物の生存の分かれ目。【特徴】 光合成のほぼ下限。/冬。
 - 厳寒期：1日平均気温5±2℃以下 (~ 3/11℃)。多くの植物の枯死、休眠が見られる温度帯。【特徴】 降霜、凍結、冬日 (霜日)。/冬。
- ※ 1日の気温較差は平均気温を中心として±4℃の8℃としてある。これは全国主要地点の過去のデータから算出した平均値による。